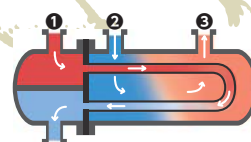




① 厚肉溶接をする従業員。同社の最大の強みである高水準の溶接技術はベテランから若い人に継承される ② 熱交換器の外観。内部に複数のパイプが設置される ③ 地元の若い人にも、ぜひ我社で働いて欲しいと語る小林工場長 ④ 流体が通るパイプの溶接前（写真上）と溶接後（同下） ⑤ 新しいオフィスで熱交換器の設計を担当する従業員

大正15年に瀬尾三五郎氏がフランジというパイプの接合部品を大阪市大正区で製造したことが瀬尾高压工業株式会社の始まり。現在、同社は国内だけでなく海外の電力会社などに鍛鋼品（強度に優れた金属製品）や熱交換器を納入するプラント機器メーカーです。「三日市工場では、熱交換器を専門に製造しているほか設計や品質管理、調達など管理部門も備えています」と同社取締役でもある小林順工場長は語ります。

大規模な発電所や工場などで使われる熱交換器は、流体（液体や気体）の熱を別の流体に移動させる設備で、エネルギーの有効利用を図ります。単純化すると下の図のようなしくみです。



熱交換器のしくみ

①から熱い水を流すと②から入れた冷たい水が③から熱くなって出てくる（実際にはたくさんの管が入っています）



瀬尾高压工業株式会社 三日市工場
従業員の安全第一という同工場では「不休労働無災害」（休業が必要な受傷者が発生していない期間）を連続 4000 日の記録に向けて更新中。
西片添町9-10 ☎63-5081
<http://www.seo-koatsu.co.jp>

三日市工場では年間220〜230台の熱交換器を生産、大きいものは約30トンに上るとか。円筒型の熱交換器は鉄板を筒状にして容器とし、中にパイプを通しますが、流体が漏れないように確実な溶接が求められます。「厚肉溶接といって、分厚い鉄板も肉厚を保ちながら溶接できるなど我社の溶接技術には自信があります」と工場長。発電所などには不具合は許されません。それだけに信頼性の高い精密な溶接技術が求められ、同社では高い技術レベルを維持する従業員が国の定める溶接士資格を定期的に更新しています。今後は、より高効率の次世代の熱交換器を追及するとともに、国内生産と同等の品質を保ちながら韓国や台湾など海外の企業とも協業してグローバルな生産活動を進めたいとのこと。また、過去に納入したプラントの保守、修繕、寿命診断など総合的なサービス体制を強化し、さらなる信頼を得て、世界の産業界に貢献していきます。



▲熱交換器の一種であるガス式給水予熱器は発電所やごみ焼却場などの排煙熱の回収に使用される。

かわちながの ものづくり探訪

Made in Kawachinagano

作

22

創

熱交換器で世界の 産業界に貢献する 瀬尾高压工業株式会社